

高校で「おもしろい！」ことをやりましょう

— フィールド科学実習を核として —

RACES2016 第1回セミナー
2016.Dec.17

兵庫県立伊丹北高等学校
北村也寸志

☆西宮今津高校での取り組み☆

【初期】 ① 甲子園浜での生物観察

講師：三宅隆三氏(西宮自然保護協会)

川井浩史氏、平井研氏など

内容：甲殻類、貝類の生息調査

② 「環境教育公開講座」

2004～2013

そもそものお話

そもそもの話とは・・・

- ▶やどかりを分類した3年生女子生徒のレポート
「ザリガニが、たくさん貝殻の中に入っていた・・・」

「環境」教育の問い直し

- ▶ 「環境」という語を封印し、「自然」そのものに慣れ親しませることを出発点とする。



自然の身体化



身体化された自然を科学する実習科目の立ち上げ

「フィールド科学実習」

自然を生活の中に取り込んだ人は、その自然を語りだすと止まらない。

《総合学科改編2年目(2008)より》

「フィールド科学実習」の概要

1. 目的

大学および専門の研究者などの指導により、沿岸底生動物の採集・同定、水質・底質調査とそのデータ解析、森林および河川の生態系の観察実習を行う。これにより、海洋科学・森林科学研究の最前線に臨みながら、フィールド科学の研究手法を修得する。また、あわせて人と自然の関わりについても考察する。

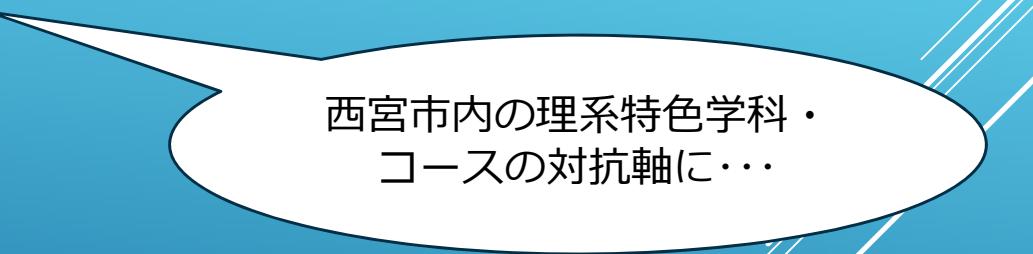
2. 実施日

毎年7月第4週辺り 3泊4日

3. 場所

京都府立丹後海と星の見える公園（NPO法人「地球デザインスクール」）

京都大学舞鶴実験所（→京都府立海洋高等学校）ほか



西宮市内の理系特色学科・
コースの対抗軸に…

















食べておいしい魚類学入門



マダイの耳石

京都府立海洋高校実習船「みずなぎ」

西宮今津高校 ⇄ 海洋高校















海の環境教育の広がり（第2段階）

☆ 西宮港湾域の水質調査（2010～；年2～4回）

講師：入江政安氏（→ + 吉村直孝氏）

◎生徒・教員が学んだこと

自分でデータを取ることの大切さ

☆ そして・・・

平成24年度第4回「魚庭の海賞」受賞

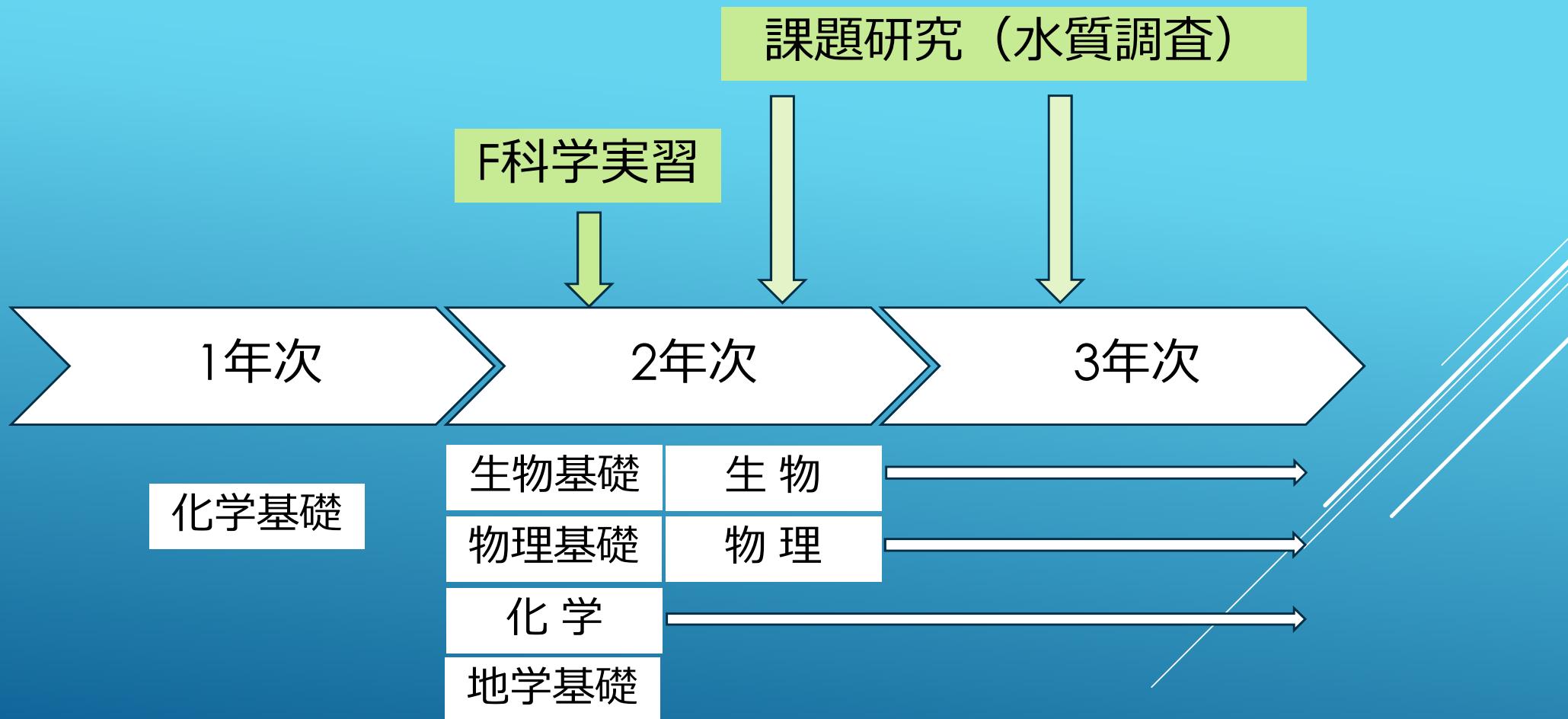
◎学んだこと：調査研究活動を継続すること







西宮今津高校(総合学科)での学びのしくみ



まとめ

1. 実習やフィールド調査で、自然の身体化を経験させることができた。
2. 班別で活動することで、「知」の共有化を図ることができた。
3. 自然の身体化は、高校生の「知」のスイッチをONにすることができる。
4. 大学進学の道筋を見つける生徒が生まれた。

私たちが伝えていくべきこと

1. 「おもしろい！」人とのつながりを求めていく。
2. 活動は継続して行なう。（後継者の育成）
3. 地域の自然を生活の中に取り込む工夫をする。
(自然の身体化)
4. 学校との交流・連携・支援を強める。
(ノウハウの伝承)

ご清聴ありがとうございました。